



PROFILE

名古屋工業大学 工学部 知能情報システム学科 卒業。
名古屋工業大学 知能情報学 工学博士。
2005年から名古屋工業大学大学院 - 工学研究科 助手。
助教を経て2016年より准教授。現在に至る。

名古屋工業大学
情報工学専攻 準教授

武藤 敦子

3
ROLE MODEL

友人関係の構築について研究。
教育の現場や社会で役立ててもらいたい。

研究内容

友人関係をシミュレーションし
友達を増やすプロセスを研究

生物が進化していく様子とか、人間が環境に適応して行動していく様子をコンピュータ上でモデルを作ってシミュレーションしメカニズムを探り、さらにそれを何かに役立てられるような研究をしています。例えば人がどのように友人を選択していくのかといった友人関係のモデル化やシミュレーションなどを行っています。具体的には、学生からのアンケートや大学の出欠システムのデータから友人関係を推測するシステムを利用して、友人のネットワークを作り分析をすることで、人はどうやって友人関係を広げていくのかを実際にシミュレーションします。実践事例として、まだ友人関係がないところに友人を増やしていくの目的として、ある授業と連携してグループワークを計画しました。出欠システムから友人

関係を引き出し、グループづくりの際にその学生の友人関係から自動でグループ分けを実施。その結果、予想通りに友人をつくることができました。このようなシミュレーションを活用して学校の先生の教室運営に役立つようなシステムを作りたいと考えています。

研究者への道のり

女性も働くべきとの母の教え
研究の面白さからこの道へ

母は専業主婦でしたが、私には小さい頃から女性は手に職を持つべきと言っていました。その影響が大きかったと思いますね。高校1年生のころまではCAを目指していましたが、文系より理系が得意だったので名古屋工業大学に進学しました。研究者を目指そうと思ったのは大学4年生で研究室に配属されたところからです。そのタイミングで指導教官の先生から、研究をしながら技官の仕事をしないかと誘ってくださいました。技官というのは今は技術職員と言っていますが、先生の技術補佐を行う立場です。その後、助教となり、結婚、出産を経て育児休暇に入った後に学位をとりました。子育てと研究との両立は大変ですが、もともとそういう方針だった母がいま私が働きやすいよう保育園のお迎えや病気になった時など積極的にサポートをしてくれる所以非常に助かっています。

工学の魅力について

人間では出せない答えが
コンピュータで出せるのが魅力

女性の工学について

男女関係なく信念を強く持つて
前に進むことが大切だと思う

学生相談の委員にも携わっていますが、最近学生の中には、一人が寂しくて大学に来なくなったり、授業でいつも一人でボソンという子もいます。こうしたことから考えても友人関係というものが、大学生活を楽しむとか、満足度を上げるためにとても必要な要素であることを実感しています。

会社でも友人がいない人は仕事の効率が悪いという傾向があり、人間関係も良好で会社に来るのが楽しいという人が多いこと。このように職場の人間関係も仕事の効率に大きく影響しています。そう考えると私の研究は教育現場だけでなく広く企業でも活用できると思っています。

学生には、どんな進路選択をしたとしてもまずは自分がどう生きていきたいかという信念を持つことがとても大事だと伝えています。女性であっても働き続けたいという強い気持ちがなければ、折れやすいと思うから。男女関係なく自分の生き方やビジョンを持って、この先も進んでいって欲しいと思います。



学生の皆さんへ

進路選択の前に、自分がどう生きていきたいかの信念を持つことが大事。男女関係なく生き方やビジョンをしっかり持って進んでいって欲しいと思います。